

日本モンゴル文学会 50 周年記念 モンゴル文学研究「ウランバートルー2023」国際学術会議

岡田 和行

2023年8月15～16日、「日本モンゴル文学会 50周年記念モンゴル文学研究『ウランバートルー2023』国際学術会議」（Япон дахь Монголын Уран Зохиолын Нийгэмлэгийн 50 жилийн ойд зориулсан монгол уран зохиол судлалын “Улаанбаатарын хурал - 2023” олон улсын эрдэм шинжилгээний хурал, 以下「本会議」と略す）が「偉大なる作家ワンチンバリーン・インジャンナシ生誕 185周年記念国際学術会議」（Их зохиолч Ванчинбалын Инжаннашийн мэндэлсний 185 жилийн ойд зориулсан олон улсын эрдэм шинжилгээний хурал）および『モンゴル系諸民族文学の現状と当面する問題』に関するフォーラム（“Монгол туургатны уран зохиолын өнөөгийн байдал, тулгамдсан асуудал” сэдэвт хэлэлцүүлэг, форум）という2つの会議とともに、『モンゴル文学の関係と連携：伝統と現在』に関する国際学術会議とフォーラム（“Монголын уран зохиолын харилцаа, холбоо: Уламжлал, өнөө” сэдэвт олон улсын эрдэм шинжилгээний хурал, форум）という統一名称の下に、モンゴル国の首都ウランバートルにあるモンゴル国立大学1号館（本館）2階の学術ホールで開催された。この三つの会議はモンゴル文化省が中心となり、モンゴル国立大学、日本モンゴル文学会、国家文化科学研究開発センター、国家言語政策評議会、モンゴル国立教育大学、モンゴル作家同盟などの機関が協力して組織され、この他に協賛機関としてモンゴル・ラジオ、ボグド・ハーン宮殿博物館、「季節と作家」誌、「新モンゴル」ラジオ、「啓発者」チャンネル、「ガンザム・プレス」出版社、「ジーコム・プレス」出版社などが名を連ね、モンゴル、日本、ロシア、中国、フランス、チェコの6か国から70名あまりの研究者が参加して開催された。

8月15日午前9時、三会議合同の開会式がS.バイガルサイハン（S.Baigalsaikhan）日本モンゴル文学会副会長（モンゴル国立大学ウランバートル校顧問教授・国立ウランバートル大学前学長）の開会の辞で始まり、Ch.エンフアムガラン（Ch.Enkh-Amgalan）モンゴル文化省事務次官、D.バダルチ（D.Badarch）モンゴル国立大学学長、伊藤頼子（Ito Yoriko）在モンゴル日本国大使館二等書記官（広報・文化担当）、芝山豊（Shibayama Yutaka）日本モンゴル文学会名誉会長（ビデオレター形式で参加）、L.ダシニヤム（L.Dashnyam）モンゴル国大統領附属国家言語政策評議会議長の順に開会の祝辞を聞いた後、ひとまず散会した。

引き続き午前10時から、本会議は同学術ホールで、インジャンナシ国際学術会議はモンゴル国立大学2号館439会議室で、モンゴル系諸民族文学フォーラムは翌8月16日に本会議に引き続き同学術ホールで午前11時30分から行われた。以下、本会議とフォーラムについて、発表者の氏名、所属、発表題目を順に紹介する（敬称略）。

開催場所：モンゴル国立大学1号館（本館）2階学術ホール

開催日時：2023年8月15日 午前10時～午後6時

開会の辞：岡田和行（Okada Kazuyuki）日本モンゴル文学会会長・東京外国語大学名誉教授

会議座長：S.バイガルサイハン (S.Baigalsaikhan) / テレングト・アイトル (Telengut Aitor)
日本モンゴル文学会事務局長・北海学園大学教授

研究発表：

1. テレングト・アイトル (Telengut Aitor) 「イマジネーションと詩歌の間で」
2. ドラーン (Dulaan, 陈岗龙) 北京大学外国語学院教授 「『京劇』と『三座山 (悲しみの三つの丘)』に関わる問題再説」
3. Ch.ダグワドルジ (Ch.Dagvadorj) モンゴル国立大学ウランバートル校顧問教授 / サラントヤー (Sarantuya, 中国) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科博士研究生 「無形文化遺産とモンゴル系諸民族文学」
4. 岡田和行 (Okada Kazuyuki) / G.ガルバヤル (G.Galbayar) モンゴル国立大学副学長・総合科学部文学芸術学科准教授 「作家 D.ツェデブの戯曲『夏の思い出』の創作の由来およびその主意と芸術上のいくつかの特徴」
5. L.S.ダンピロワ (L.S.Dampilova) ロシア科学アカデミーシベリア支部モンゴル学・仏教学・チベット学研究所文学・口承文芸研究部門長 「B.ガルサンスフの韻文における文芸作家の名前」
6. 都馬バイカル (Toba Baikal) 桜美林大学教授 「1930～1940年代に日本に留学していたモンゴル人の文化活動—ホアツァイ・ドガルジャブ (都嘎爾扎布) と服部四郎の共同出版した『蒙文元朝秘史』について」
7. D.ツェンドジャブ (D.Tsendjav) モンゴル国立大学顧問教授・モンゴル作家同盟運営評議会前議長 「遊牧民の心理を描いた詩歌の現象学的特徴」
8. ワン・マンドガ (Wang Manduga, 王满特嘎) 中央民族大学モンゴル言語文学系教授 「モンゴルの文化、教育、文学、芸術についてロブサンチョイドンの基づいていた信条」

【昼食休憩】

会議座長：ワン・マンドガ (Wang Manduga, 王满特嘎) / G.ビルグーデイ (G.Bilguudei) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所文学研究部門長・同研究所前所長

研究発表：

1. D.バトジャルガル (D.Batjargal) モンゴル国立大学顧問准教授 「民衆の心象言語の本質とその特徴」
2. チョルモン (Cholmon) 内モンゴル師範大学モンゴル学学院教授 「サイチングの文学作品の人物形象について」
3. Ch.ジャチン (Ch.Jachin) 「ゴルバン・エルデネ」師範大学学長 「D.ナツァグドルジの作品の手写原本の価値」
4. R.チュルテムスレン (R.Chultemsuren) モンゴル国立教育大学顧問教授 「D.ナムダクの短編小説『ある動物の二度の死』の執筆年代の問題について」
5. A.ムンフオルギル (A.Munkh-Orgil) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科准教授 「M.ヤダムスレンの作品の思想について」

6. ボヤンバートル (Buyanbaatar) 内モンゴル師範大学モンゴル学学院教授 「『賢者たちのことば (Сэцдийн үг)』 という一つの特殊な文学ジャンルについて」
7. 藤井真湖 (Fujii Mako) 愛知淑徳大学教授 「Ts.ダムディンスレンの二つの短編小説の先見性—現代における妖怪とは何か」
8. S.ムンフサイハン (S.Munkhsaikhan) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所研究員 「『モンゴル秘史』の意味論・文化・思想」
9. G.ビルグデー (G.Bilguudei) 「ヒシグバトの『元朝秘史』について」
10. D.バトサイハン (D.Batsaikhan) モンゴル国立文化芸術大学舞台芸術学部准教授 「現代モンゴル演劇作品の発展の諸問題」
11. D.ボロルマー (D.Bolormaa) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所研究員 「ツェンド公の『モンゴル秘史』の転写と翻訳について」
12. ティフェーヌ・カーン (Typhaine Cann, フランス) 「B.リンチェンの長編小説『曙光』のフランス語訳の問題」
13. S.バイガルサイハン (S.Baigalsaikhan) / 李麗 (Li Li, 中国) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科博士研究生 「アラシャー韻文の詩学的特徴—ボヤンバトの詩を例にして」

開催場所：モンゴル国立大学 1 号館（本館）2 階学術ホール

開催日時：2023 年 8 月 16 日 午前 9 時～午後 1 時

会議座長：G.ガルバイヤル (G.Galbayar) / G.バトソーリ (G.Batsuuri) モンゴル国立教育大学
社会人文科学部文学科准教授

研究発表：

1. G.バトソーリ (G.Batsuuri) 「賛歌 (マグタール) と書面韻文の関係について」
2. Kh.チョイドグジャムツ (Kh.Choidogjamts) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科
博士研究生・「シティ (СИТИ/CITI)」大学教員 「モンゴル文学研究の発展の傾向 (2000
年から現在まで)」
3. I.ダワードルジ (I.Davaadorj) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科助教 「P.バイヤル
サイハンの長編小説『鎮守の都』の芸術的特徴—夢想と予兆」
4. サランチメグ (Saranchimeg, 中国) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科博士研究
生・ボルトホイ大学 (内モンゴル自治区バヤンノール市) 教員 「M.ムンフーの長編小説
における口承文芸の伝統」
5. B.ムンフバイヤル (B.Munkhbayar) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所研究員 「メト
ニミー (metonymy, нэгэн төлөөлөл сэтгэмж, 換喩) とその伝統について」
6. 玖月 (Jiu Yue, 中国) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科博士研究生・ボルトホ
イ大学 (内モンゴル自治区バヤンノール市) 教員 「姜戎の長編小説『神なるオオカミ』
の主人公ビリグの心の動きの翻訳について—ビリグの笑いを例にして」
7. J.オーガンバートル (J.Uganbaatar) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所研究員 「モ
ンゴル現代演劇作品における “deus ex machina” ([羅] デウス・エクス・マキナ=機械

しかけの神＝作為的な大団円)を観察する」

この後、午前11時30分から午後12時45分まで、A.ムンフオルギル (A.Munkh-Orgil) モンゴル国立大学准教授の司会で、モンゴル系諸民族文学フォーラムの一環として、内モンゴルの作家たちのキリル文字に翻字された新刊本の紹介と関係者への贈呈式が執り行われた。まず初めに、バルガの著名作家 G.シャルフー (G.Sharkhuu) のあいさつと自身の長編小説『力士の神通力 (Бөхийн тэнгэр)』(「遊牧民の文化の連繫」叢書、第9巻、ウランバートル、2020年)の紹介があり、次に内モンゴルの著名作家マンドモイ (Mandmui) の中編小説集『駿馬・狼・故郷 (Хүлэг, чоно, нутаг)』(同叢書、第11巻、ウランバートル、2020年)を本人が高齢で不在のため、内モンゴルの作家 E.ブレントゥグス (E.Burentugs) が代理で紹介した後、同じく内モンゴルの作家 T.エルヘンゲー (T.Elkhengee) のあいさつと自身の回想や随筆などを収録した散文作品集『エルヘンゲーの探求 (Элхэнгээгийн эрэл)』(同叢書、第10巻、ウランバートル、2020年)の紹介があった。次に最近死去された文学研究者のアルタンガダス (Altangadas) ボルトホイ大学教授の代理として、教え子の同大学教員でモンゴル国立大学博士研究生のサランチメグ (Saranchimeg) が教授の著書『オラド文学研究 (Урад уран зохиолын судлал)』(同叢書、第12巻、ウランバートル、2022年)を紹介し、再び作家 E.ブレントゥグスが演壇に登場し、自身が編集した内モンゴル近代中短編小説集『世紀珠玉集 (Зууны дээж)』(ウランバートル、2023年)を紹介した。最後に B.ヒシグスフ (B.Khishigsukh) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科准教授のキリル文字に翻字した『インジャンナシ評伝 (Инжаннашийн намтар)』(ウランバートル、2023年)が紹介され、6冊すべてが岡田を介して日本モンゴル文学会にも贈呈された。

贈呈式が終わり、本会議も終幕を迎えて最後となり、S.バイガルサイハン (S.Baigalsaikhan) 副会長の閉会の辞があったが、その中で「国際モンゴル文学研究協会 (Олон улсын монгол уран зохиол судлалын нийгэмлэг)」の設立が突如「宣言」され、その運営評議会 (Удирдах зөвлөл) のメンバーにテレングト・アイトル (Telengt Aitor, 日本)、岡田和行 (Okada Kazuyuki, 日本)、マリア・ペトロワ (Maria P.Petrova) サンクトペテルブルグ大学アジア・アフリカ学部モンゴル・チベット学科准教授 (ロシア)、ラリーサ・ハルハロワ (Larisa Ts.Khalkharova) ブリヤート国立大学東洋学研究所ブリヤート語・エヴェンキ文献学科准教授 (ロシア)、ドラーン (Dulaan, 陈岗龙, 中国)、ワン・マンドガ (Wang Manduga, 王满特嘎, 中国)、イ・スナ (Lee Suna, 이수나, 李善娥) 檀国大学アジア・中東地域研究学院准教授 (韓国)、B.ムンフバヤル (B.Munkhbayar, モンゴル)、G.ガルバヤル (G.Galbayar, モンゴル)、G.バトソーリ (G.Batsuuri, モンゴル)、D.ガンボルド (D.Ganbold) 「ジーコム・プレス」出版社社長・国家文化科学研究開発センター長 (モンゴル) らが「選出」(実際は「指名」)された¹。

以上

¹ <https://inll.ac.mn/c/1005670?content=3930133>